令和2年度 年間教科シラバス

中学•高校	髙 校	学年	3	年	コース	高校3年	Ⅱ 型グレー	ド別
教 科	理 科		科目		生	物	単位数	4
教科書	改訂 生物			副都	数材 class	i		

○学習到達目標

「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力に付けさせる。生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発順に従ったレポートを作成する能力を育てる。命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、する精神を養う。進路に応じた理科的学力を伸ばす。

○教科道徳教育到達目標

科学的な態度をもつことを基礎として、道徳性を養う。真理を愛し、真実を求め、差別や偏見のない社会の実現をめざす。生命の尊さを理解し、尊重する。自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもつ。

○学習方法

教材の教科書・配布されたプリント等を授業中は常に机上に出し、授業に臨むこと。

実験には積極的に参加すること。実験レポートの作成も必須である。

視聴覚教材や自然観察の際, 必ず記録をとること。

授業中は教師の話をきちんと聞く。(当たり前のことが当たり前にできるようする。)

授業開始時の礼,終了時の礼は大きな声を出すこと。

○グレード別授業の基準

- A・・・1組、2組、3組で理科を受験科目とするもの
- B・・・1組、2組、3組の大学進学希望者、理科に関わりが深いもの短大・専門学校進学希望者
- C・・・1組、2組、3組の短大・専門学校進学希望者、就職希望者、D・・・4組

○評価方法

各学期ごとに、下記評価基準に基づき、学期成績を算出し、すべての学期成績の平均を学年成績とする。

	評価の観点	評価のポイント	ループリック評価()、()	ループリック評価②、④	期(学年)末考查			備考
А	関心・意欲・態度	授業に向かう態度、ノートへのこだわり、課題への取り組み	0	0				
В	思考·判断·表現	授業での発表、授業での演習および課題、テストへの取り組み	0	\circ	0			
С	観察・実験の技能	演示実験、アプリでの模擬実験、実験への取り組みおよびレポート	0	\circ				
D	知識•理解	テスト、課題への取り組み	0	0	0	/	/	
Е								
	評価の割合(%)							\tag{\text{\tin}\text{\tetx{\text{\tetx{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\ti}\}\tittt{\text{\text{\texi}\text{\text{\texi}\tittt{\text{\text{\text{\texi}\tilit{\text{\texitil{\text{\texi}\titt{\text{\tet{\text{\texi}\titt{\text{\texi{\texi}\texi{\texit{\texi{\t

1学期成績= ルーブリック評価①(25点)+ルーブリック評価②(25点)+期末考査(100点満点×0.5) 2学期成績= ルーブリック評価③(25点)+ルーブリック評価④(25点)+期末考査(100点満点×0.5) 学年成績=(1学期成績+2学期成績)/2

	○指導計画									
学期	月	学習内容	学期	月	学習内容	学期	月	学習内容		
	4			9	遺伝子のはたらき	J	1	生態と環境		
	4			9	生殖と発生	J	1			
	5			10	生殖と発生					
1	J		9	10						
1	6	生命現象と物質		11	生殖と発生	_				
	U			11		_				
	7	生命現象と物質		12	生物の環境応答					
	1	遺伝子のはたらき		14						

観点	評価段	皆 A	В	С	D
	評価項目	^	D	o o	J.
	サイエンスコンテス	ト 80点以上	65点以上	50点以上	50点未満
知識		書いたり、声に出したりしな	書いたり、声に出したりしな	書いたり、声に出したりしな	練習し再テストに臨んだ。
技能	再テスト	がら練習し再テストに臨ん	がら練習し再テストに臨ん	がら練習し再テストに臨ん	
		だ。結果、満点であった。	だ。結果、80点以上取得し	だ。結果、80点未満であっ	
		提示された複数のテーマを			提示されたテーマとは関係が
	R100(作文)	活用して、自分の意見をまと	自分の意見をまとめている。	記入し、自分の意見が表現さ	ない。または、作成が完了し
思考力		めている。		れていない。	ていない。
判断力			解き方を正確に理解し、自在		
表現力	演習	に活用することができる。さら	に活用することができた。	たが、うまく活用することがで	ない。
	供 自	に、別の解き方を模索する		きない。	
		等、工夫が見られた。			
		全ての板書を写し、講義の内	全ての板書を写した。	一部の板書を写すことができ	ほとんどの板書を写すことが
	授業ノート	容なども別枠でメモするなど		なかった。	できなかった。
態度		工夫が見られる。			
			期限内に提出することができ		提出することができなかっ
	課題	し、すべての問題に答え、期	た。	ことができた。	た。
		限内に提出することができ			